

Successful correction of stenotic nares using combined Alar Fold Lift-Up and Sulcus Pull-Down Techniques in brachycephalic cats: 8 cases (2017–2022)

Introduction

猫の外鼻孔狭窄は短頭種猫において頻繁に認められ、上部気道閉塞による症状を引き起こす原因となる。筆者らは、短頭種猫の解剖学的特徴である鼻溝吻側の皮膚の盛り上がり注目。本研究で新しい外鼻孔狭窄矯正術として、『鼻翼ひだlift-up&鼻溝pull-down』を説明

Materials and Methods

2017/04/11~2022/07/11 Angel Animal Center
重度外鼻孔狭窄があり進行性の呼吸困難を呈する飼育猫(n=6)
麻酔導入時に軟口蓋および喉頭の観察実施

【術式】

- ①No.11メス刃あるいは4mm生検パンチを使用し、鼻翼ひだの外背側の皮膚を切除
- ②4-0合成吸収性縫合糸にて縫合(鼻翼lift-up)
- ③鼻溝吻側の盛り上がった皮膚も同様に切除し縫合(鼻溝pull-down)
- ④対側も同様

Results

品種：ペルシャ(n=4),ヒマラヤン(n=3),スコテッシュフォールド(n=1)
年齢：2~9歳、体重：2.4~5.7kg(平均4.3kg)
全頭軟口蓋および喉頭異常なし
全頭術後呼吸状態良好,鼻孔の開存性維持
術後合併症なし
※6ヶ月以上フォローアップ (18month、3~5year)

Discussion

犬の短頭種気道症候群は主に軟口蓋過長、外鼻孔狭窄などが関連し臨床症状を呈する。猫の短頭種では、軟口蓋および喉頭の異常は伴わず外鼻孔狭窄が主な原因になっていると考えられる。猫の短頭種では鼻溝吻側の皮膚の隆起も外鼻孔の狭窄に関与していると考えられる。本研究の術式では特殊な手術器具を使用せず、出血のリスクも少ない。

Review

他の術式との比較がないため、どの術式がより症状の改善に最適なのか検討が必要。簡易かつ安全な術式であるため当院でも実施できるのではないかと。避妊・去勢を実施するような月齢で実施した際の経過が気になる。

手術手順：生検パンチを使用した場合

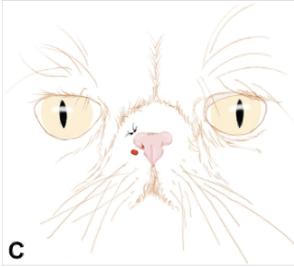


A

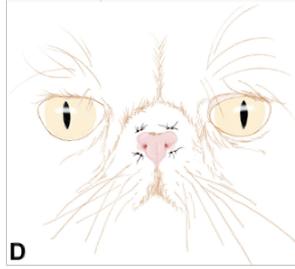


B

A: 4mm生検パンチを使用し、鼻翼に接する皮膚の背外側を切除



C



D

C: 皮膚切除部を4-0吸収糸で縫合
鼻溝の吻側の皮膚をパンチ生検で切除

D: 縫合し対側も同様

症例：ペルシャ猫の術前、術後

Before



A

After



B